

私は痩せるのが大嫌いだ。

クリスマスが好きなのは私だけのようだ。皆ただ座ってひたすら食べるだけだ、と私の兄弟がまた言っている。

親愛なる友人たち！私たちは引っ越しますが、君たちはこれまでのように私たちを訪ねてくれると思います。

私が尋ねても、床に転がるレーズンが何を意味するのか、誰もあまり分かっていない。

鳴り響く鐘の音に起こされて、私は物思いにふける。

お金と観光の知識は、外国人にとって旅行の時に役に立つだろう。

私の友達によると、新種のトウモロコシは痩せがちな人に良いということだ。

道で彼らに会っても、彼らはただきつと「さようなら」と私に言うだけでしょう。

rの音

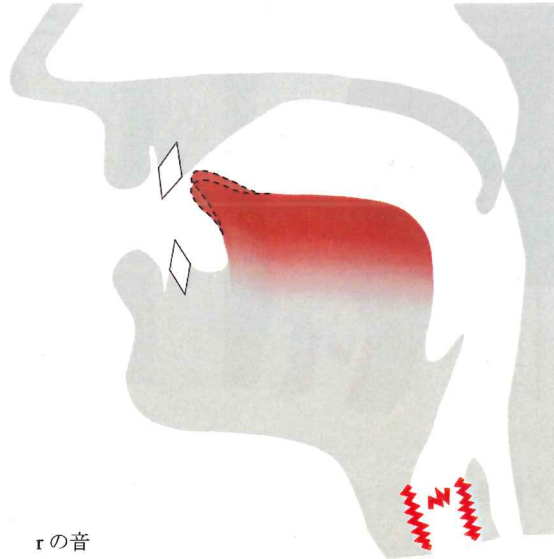


日本人学生の発音の誤りには二種類あります。一つは、ポーランド語のふるえ音のrが発音できないということです。これは調音的な技術が不十分であることが原因です。その場合、ポーランド語のrは日本語のはじき音のrになるか、もしくはlに似た音に置き換えられます。日本語のラ行の音は、舌の先が歯茎の部分に一度触れるだけなので、ポーランド語のふるえ音のrとは全く違う響きになります。ポーランド語で、単語の真ん中、前舌歯音の後にrが現れる場合には、日本語のラ行でも決して悪くはありません。例えば、*droga*, *drabina*, *drewniany*, *dramat*, *trawa*, *trasa* などの場合です。なぜかという、口語ポーランド語においてrの「ふるえ」回数は減る傾向にあるからです。しかしながら、語頭に現れる場合には、響きの違いがかなり顕著になります。また、学生によってはポーランド語のrを英語のrのように発音する傾向もあるようです。

二つ目の問題としては、ポーランド語のrとlの聞き分けができないことが挙げられます。この結果、ポーランド語でrが現れる場所でもlが現れる場所でも、同じようにふるえ音のrを発音してしまうということが起こります。



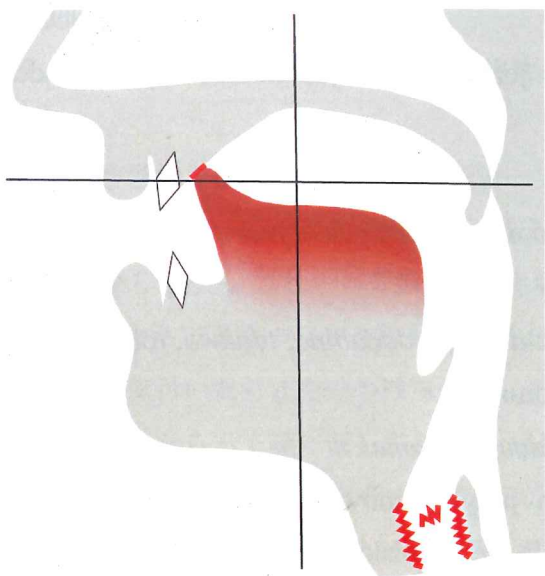
ポーランド語の r の発音は、歯茎の部分における舌先の震動（素早い打ち付け動作の連続）によって発生します。r の音だけであれば、長めに発音することが可能です。普通の会話の中では、2-3回打ち付けます（日本語では1回）。r の音は声帯の震えとともに発音されます。



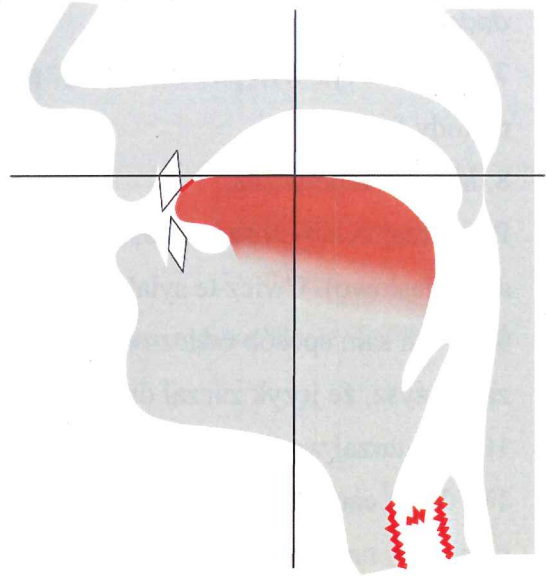
個人個人の問題や素質によって、r の音の練習にはいくつかの方法が考えられます。また、成功は、短い期間ですぐに得られるものではないことを覚悟しておく必要があるでしょう。

I. r の発音に際して、舌の震動が欠如している場合。

1. 鏡の前に座りましょう。
2. 舌を慣らすために、この章の第一部にある「舌の訓練」をして下さい。
3. 音の練習そのものに入る前に、舌先の能率を良くするための準備練習が必要です。
 - a) d に少し変化を加えた音を練習します。舌の先は歯茎に触れていてはいけません。従って、d の音は普通の d とは違う響きになるはずですが、発音の際に舌は歯のすぐ後ろの部分に触れています。二つの種類の d を比べてみて下さい。



歯茎音 d



普通の歯音 d

練習にあたって、**d** は **d** の歯茎音であることを意味し、**d** は普通の歯音の **d** を意味することを覚えておいて下さい。

b) 早く、**d d d d d** と発音しましょう。舌が歯茎の部分に触れていることを確認しながら。練習の際に普通の **d** を発音しては効果が出ません。

c) 同じように交互に、そして素早く、**ʈ d ʈ d ʈ d ʈ d** と発音して下さい (**d** にアクセントをおいて)。

d) 今度は **te de te de te de te de tu du tu du tu du tu du** (**de** と **du** にアクセントをおいて) と発音しましょう。

e) 最後に、**ʈ d n, ʈ d n, ʈ d n, ʈ d n** と発音してみましょう (どの音を発音するときにも舌は歯茎の同じ場所に触れているように)。

4. r を引き出すための機械的な方法

d d d d d と素早く発音しながら、真っ直ぐのばした小指で、舌先に下から触れてください。素早くそっと触って下さい。最初は発音矯正士と一緒にこの練習を行うと良いでしょう。舌先がきちんと訓練されていれば、指で何度か触れた後に、舌先の震動が起こるはずですが。

5. 指で触れた時に起こる音に注意を向けて下さい。できるだけ短く、そっと触れるようにしましょう。そして少しずつ触る力を弱めていきます。

6. rを発音したい時に指で触りながら、音節を練習しましょう：d̄d̄d̄d̄(r)¹¹a, d̄d̄d̄d̄(r)e, d̄d̄d̄d̄(r)o, d̄d̄d̄d̄(r)u

7. 指で触った時にrの音がきちんと出せるようになったら、音声学的な方法に進みましょう。

8. 音声学的な方法

t̄d̄d̄a, t̄d̄d̄e, t̄d̄d̄u, t̄d̄d̄o の音節を繰り返しましょう (tは普通の発音、d̄は歯茎音であることに注意しましょう)。これらの音節を何度も練習しましょう。

9. 同じ方法で単語の発音を練習しましょう：d̄d̄d̄oga, d̄d̄d̄abina, t̄d̄d̄awa, t̄d̄d̄oje 舌が震動し始めるのに気付いたらd̄を一つ減らしましょう。

10. 例にならって繰り返しましょう：d̄d̄oga, d̄d̄abina, d̄d̄ugi, d̄d̄amat

11. 上に挙げた単語を発音する際に舌が震動するのを感じて聞こえてくるようになったら、d̄がふるえ音のrに変わったのだと考えてまず良いでしょう。

12. その後は以下にあるように、音節、単語の練習に進みますが、練習の際には指示通りの順番で行うようにしましょう。

II. ふるえ音のrを発音することはできるが、rとlの聞き分けができない場合

1. 新しい単語を習ったり読んだりする時に、rとlが現れる単語に注意しましょう。それらの単語を色づけすると良いかもしれませんが。単語を覚える時に、正しい発音も同時に身につけるようにしましょう。読んでいる単語の中にrを見つけたら舌が震動するように、発音をコントロールしましょう。最初は、聴覚的というよりも、感覚的なコントロールかもしれませんが、次第に二つの音を聞き分けられるようになってくるでしょう¹²。

2. 音が一つ異なるだけの単語の発音練習をしましょう。



rok – lok [年 – 巻き毛]

brat – blat [兄弟 – 板]

bar – bal [軽食道 – 舞踏会]

rada – lada [忠告 – 売り台]

kura – kula [鶏 – 球]

raz [ras] – las [1回 – 森]

¹¹ (r)の表記は、舌先を触ることによって得られる機械的なふるえ音rを表している。

¹² いわゆる「精神管理 (gestion mentale)」理論の仮定によると、外国語の習得には様々な方法があり、情報を与えるにあたって異なる順番を想定している。例えば1. 発音→表記→意味、2. 発音→意味→表記、3. 表記→発音→意味、など。これについてはD. Galyga (2005)が言及している。ここでとりあげた練習では、表記から始まる習得を想定している。発音の習得にあたって、聴覚的な調音のコントロールもあれば、感覚的なものもあり得る。

w firmie - w filmie [会社で-映画で]

bór - ból [森-痛み]

ród [ród] - lód [lód] [家系-氷]

kufer - kufel [トランク-ジョッキ]

dar - dal [贈り物-遠方]

rektor - lektor [学長-講師]

żar - żal [炎暑-悲嘆]

żer - żel [獲物-ゼリー]

rufa - lufa [船尾-銃口]

3. できるだけたくさんのポーランド語の文章を耳にするようにしましょう。

4. ポーランド語の1の音に問題がある場合は、この音についての箇所を読んで下さい¹³。



tra, tro, tru, tre, try



atra, otro, utru, etre, ytry

dra, dro, dru, dre, dry

adra, odro, udru, edre, ydry

trawa, trasa, trafić, trochę, troszeczkę, troska, troje, trudny, truskawki, trójka, trenować, siostra, jutro, straszyć, cytryna, piętro, strona, trwały

dramat, drabina, droga, drobne, drugi, drukować, drewniany, zdrowy, kraj, krótko, Kraków, krawat, krowa, król, krokus, mikrofon, granica, gruby, gra, grypa, grudzień, gruszka, gramatyka, grupa, w ogrodzie, dobry, brudny, brać, brat, brakować, brama, praca, proszę, próba, prezent, program, prosto, prysznic, wracać, zrobić, środa, Francja

ara, oro, uru, ere, yry

ar, or, ur, er, yr

ra, ro, ru, re, ry

para, aparat, wtorek, urodziny, cukierek, pora, jezioro, skóra, starać się, herbata, warto, serce, litera,

¹³ 第二部1の音の項を参照のこと。

numer, sweter, aktor, katar, ser, pomidor, spacer, papier, wieczór, bar, zegar, deser, telewizor, pasażer, komputer, pożar, kelner, radio, rano, razem, radosny, rok, rozmowa, rodzina, rodzaj, robić, róża, różowy, różny, równy, reszta, ręka, ręcznik, ryż, rysować, ryba, rynek

トレーニングは難しいこともあるが、頑張る価値はある。

朝、湖の畔で、俳優の集団が楽しそうに話していた。

気分が良くない——鼻が出るし、咳もある。多分インフルエンザだ。

困っている。高いコンピュータプログラムを買ったのだけれど、全く理解できないんだ。

ヴロツワフの中央広場に問題なくたどり着けた。

火曜日に彼女を公園への散歩に誘うつもりだ。

君に誕生日プレゼントをしたいが、バラかクロッカスか、それとも赤いスイートピーか、君の好み分からない。

冷蔵庫に残ったのは、チーズ、トマト、赤いキャビアとショウガだけだ。

夕方まっすぐクラクフに戻る。

砂糖とレモンの入った紅茶が好きですか？

明日少し庭仕事をする。

ウェイターは、魚にライス、そしてイチゴか梨のデザートを勧めた。

彼には家族との会話が不足していた。

心には門があり（心を開くことを勧める人もいる）、限界があり（愛は限界を知らないが）、そして四季さえもある（心に何度春を感じるのだろうか？）。



ポーランド語の r は、*wiatr, metr, litr, teatr, Piotr, termometr, filtr, semestr, Cypri* のように、語末で、他の子音の後に続く場合は無声化します。



チャレンジとなるのが、一つの単語の中に r が 2, 3 回登場する難しい単語でしょう。例えば *rower, parter, rozmiar, trener, charakter, referat, rektor, reżyser, srebrny, Fryderyk, terror, horror, narrator, errata* などです。

あきらめないで頑張りましょう。r の音の練習は、まる一年かかることもあるのです。